

④-1 課題名：スリップス被害対策検証事業

要 約

- ・花き生産ハウス内と麦畑、および畦畔に生息するスリップスの種類・捕獲数調査を行い、発生動向を確認した。
麦刈時期との関連性については、特にストックのハウスでは、麦刈直後からネギアザミウマを主としたスリップスが麦側のトラップで急増し、麦刈との関連性が疑われたが、麦で主に発生した種とは異なるため、畦畔雑草や麦畑内のヤグルマギクで発生していた種が飛来した可能性が高い。
これらのことから、特に花のハウス周辺での畦畔管理とヤグルマギクの防除が有効であると推測する。

担当者：野菜花き試験場 主任研究員 桑澤 久仁厚 ・ 松本農業改良普及センター 主査 水谷 俊英
JAあづみ 農産課 茅野 ・ 安曇野市農林部農政課生産振興係 藤原

1. 課題設定の背景と目的

スリップスによる被害は、多くの花き農家が共通した課題として抱えており、少しでも解消する事が求められている。そこで、花き生産ハウス内と周辺の麦畑、および畦畔に生息するスリップスの種類・捕獲数調査を平成24年5月～7月に実施した。

2. 調査研究の内容

- (1) 調査場所 麦畑 雑草の多い圃場と少ない圃場 2箇所
花き農家（ストック、キク、トルコギキョウ）3箇所

(2) 調査方法

- 1) 麦 5月18日、6月12日（野菜花き試験場実施）

麦：捕中網20回振

麦圃場の優占雑草：摘み取って見取り採取

麦圃場の畦畔雑草：摘み取って見取り採取

- 2) 花 5月から7月間（松本農業改良普及センター実施）

花き農家：粘着トラップによる誘殺

青色粘着紙（10×20cm）をハウスの麦畑に近い側と反対側の2ヶ所に設置し、7日間隔で粘着紙上のアザミウマ類を簡易識別し、種類捕獲数を調査

3. 結果の概要及び考察

麦畑において発生していたアザミウマ類は、主に麦に寄生する種類と、主に雑草、花に寄生する種類に分けられる。麦にはイネクダアザミウマとクサキイロアザミウマの2種類が寄生し、雑草、花に寄生する種類は、ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマの3種類であった。

花ハウス内で捕獲されたアザミウマ類は、ほとんどがネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマであったことから、麦に寄生するスリップスではなく、麦の畦畔内の雑草に生息するアザミウマが花を直接加害する可能性は高い。

また、麦刈時期との関連性については、特にストックのハウスでは、麦刈直後からネギアザミウマを主としたスリップスが麦側のトラップで急増し、畦畔雑草や麦畑内のヤグルマギクで発生していた種が飛来した可能性は否定できない。

これらのことから、特に花のハウス周辺での畦畔管理とヤグルマギクの防除が有効であると推測する。

※調査試験検証機関 松本農業改良普及センター 野菜花き試験場

4. 情報提供方法

安曇野市農業再生協議会だより等

○麦畑におけるアザミウマ類捕獲調査結果

場所	採取作物	5月18日実施								6月12日実施						
		イネクダ	ヒラズハナ	ネギアザミ	ミカンキイロ	クサキイロ	不明	計	イネクダ	ヒラズハナ	ネギアザミ	ミカンキイロ	クサキイロ	クダアザミ類幼虫	計	
穂高柏原	小麦 1	2	0	0	0	1	0	3	0	2	0	0	12	108	122	
穂高柏原	小麦 2	5	0	0	0	4	1	10	0	0	0	0	0	156	156	
穂高柏原	小麦 3	5	0	0	0	3	0	8	0	0	6	0	8	82	96	
穂高柏原	畦畔雑草 (ハルジオン)	0	4	5	0	0	0	9	7	14	2	2	4	0	29	
穂高柏原	小麦 1	1	0	0	0	0	1	2	0	3	8	0	5	0	16	
穂高柏原	小麦 2	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	40	162	202	
穂高柏原	小麦 3	8	0	0	0	2	0	10	0	0	0	0	12	148	160	
穂高柏原	畦畔雑草 (クローバー)	3	19	1	7	0	0	30	0	2	0	0	48	124	174	
三郷	ヤグルマギク 青	0	8	2	3	0	0	13	2	36	2	17	0	0	57	
三郷	ヤグルマギク 紫	0	9	5	0	0	0	14	1	9	2	0	1	0	13	
三郷	ヤグルマギク ピンク	2	5	4	2	0	0	13	0	23	12	0	0	0	35	
三郷	タンポポ	0	3	0	2	0	0	5	0	15	2	0	0	0	17	



麦畑内の捕中網 20 回振りでアザミウマの調査



麦畑と畦畔に生息するスリップスの種類・捕獲調査圃場



麦圃場の畦畔雑草：摘み取って見取り採取

